

今夏の気象は、

日本ばかりでなく、世界中が異常だった。

地球を傷つける人間達に

地球が怒り狂っている。

パリ協定を破り棄て、

平和な世界秩序を乱す暴君に、

子ども達の未来に対する責任は感じられない。

環境保全と世界平和を

心から願った八月だった。

それでもお盆を過ぎると、

龍ヶ崎の幼稚園の斜面に

真っ赤な小さい日光キスグが咲き乱れ、

風に揺れていた。

夕方には、虫の音が一斉に響き、秋の気配。

天高く澄んだ風と青い空

美しく変化する自然の中で

子ども達と自由にのびのびと、

思い切り走ってみたい。

*今月も気温の高い日は水遊びを行います

ので、涼しい日には、秋の自然を感じる活動

を計画していく予定です。



夏祭りへのご協力有難うございました。

・保護者会役員の方々の企画のお陰で夏の

楽しい思い出が、また一つ増えました。御

神輿や盆踊り、ぞうグループの太鼓・・・

子ども達の表情や心もちを感じて頂けま

したか？そして、今も夏祭りごっこは続い

ています。また、きりんグループの子ども

達は、ぞうグループの子ども達の太鼓演奏

の様子を憧れの表情を浮かべながら見て、

真似て、次年度の期待へと繋げていきます。

園行事へのご協力、有難うございました。

今月の予定の中から・・・

●アルファ米を食べよう。(3日)



・今年も、防災の日(9/1)にちなみ、アルフ

ァー米のおにぎりといんちん汁を食べます。に

じぐみの離乳食の子は、缶詰のお粥を食べ、

“もしも”の時に備えます。

●公開保育(4日)

・毎年、牛久市内の保育士研修で互いに日常の

保育を見学し合い、勉強会を実施しています。

当日は、本園の4、5歳児クラスの泥あそびを

している様子を見て頂きます。自分たちの保育

を振り返る良い機会として今後に生かしてい

きたいと考えます。

●カレー昼食会を行います。(13日)

・4、5歳児は、エプロン・三角巾の用意を子

ども達自身で出来るように見守ってください。

*今月は、たいようぐみ・そらぐみの祖父母の

方々と一緒にカレー昼食会を計画しています。

各クラスの祖父母の方で(一家庭お一人のみ)

ご参加頂ける方は9/1(月)までに担任にお知

らせ下さい。

●お弁当デー(19日)

・まだまだ暑い日が続きます。お弁当には

通年で保冷剤を入れて持たせてください。

●誕生会(27日)

・お子さんのお誕生会をご覧になりたい方は是

非担任までお声掛けください。今月は先生達に

よる合奏・合唱です。乞うご期待!

●通報訓練(29日)

・今月は、消防署の方々に、園の避難訓練の様

子を見て頂きます。消防自動車も来ますよ!

☆お知らせ

☆5歳児の筑波登山は10月3日(水)です。詳

細は後日お知らせします。

子どものケンカ

・・・自我の確立と他者との協調

ある脳科学者が、子どもがケンカをするこ

とは良いことだ、と言っていた。お互いが

主張をぶつけ合い相手の主張を理解する

ようになるからだ、と言う。子どものケン

カは、たいがい手を出し、足を出し、時に

は、噛みつき、ひっかく子もいる。暴力で

あって、相手の主張なんか、理解する余裕

はない。脳科学者だから、自分の頭で考え

ていることを言っているだけで、子どもの

現実は見えていないのだろう。力が同等なら

お互いに手を振り回して戦うのを見てい

ても良い。危険だな、と思う時にケガをし

ないように介入する。お互いに泣きだし、

へろへろになるまでやらせると、落ち着い

て「○○ちゃんが○○したから悪いんだ」

「違うよ、僕が先に・・・してたら」など

と話し合いに入る。しかし、力が対等では

ない場合が殆どだ。いつも、弱い方は自分の

主張を言わないで、諦めて引いてしまう。

こうなると、主張などない。強い方は、相

手の主張などお構いなしだ。こういう時は

介入して、弱い方も、自分の主張を言える

ように支援する必要がある。▼みんなより

早く登園して来たAが、サッカーボールを

独占して、一人でゴール目がけて繰り返し

シュートしていた。そこへ、クラスで一番

体が大きく、いつも威張っているBがやつ

て来て、Aが蹴ったボールを、さっと取っ

てシュートを始めた。Aが「僕が先に使っ

ていたんだ、返して」と抗議した。Bは、

返すどころかAを無視してシュートを続

けた。Aが「すぐごと引き返してきた。私

と目が合った。私は「Aが使っていたボー

ルだろう。いいの?悔しくないの?返し

てもらったら?」と激励を込めて言った。

Aは意を決してBのところへ向かい「返

せ」と言った。しかし、BはAを突き飛ば

した。Aは、また、すぐごと引き下がっ

てしまった。そして、私とまた目が合った。

私は無言で、あごをつき出し「やれ!」「行

け!」と伝えた。今度Aは、突き飛ばされ

ても突き飛ばされても、泣きながら向かっ

ていった。その執拗さにBも泣きだし、と

うとうボールを返した。そこで、私は介入

した。泣きじやくる二人を園庭の隅のタイ

ヤに座らせ、全て知っているのに「どうし

たの?」と、問いかけ二人だけにした。そ

して二人は、お互いに言いたい事を言い合

い、結局、Bが「僕が悪かった」と謝った。

Aは自分の思い、主張をはっきりと言うこ

とを学び、Bは相手の思い、悔しさを知る

ことを学んだ。▼子ども達に、ケンカが良

いというのは自分の意思をきちんと持ち、

主張できるようになることであり、自分と

違う相手の思い、考えを知り、理解するよ

うになるからでなければならぬ。話し合

い、言い合うことは大切である。グローバ

ル化と、AIをはじめとする情報技術の発

達する世界の中で、人種も、宗教も、考え

も、違う他者と共存し、情報技術に振り回

されず、人間として平和で豊かな世界を作

るためには、まず、自分をしっかり確立し、

主張できるようにすると同時に、自分と違

う他者を理解し、協調できるようにならな

ければならない。理事長 浅田 精利

